



第4回「学校運営協議会(三校合同会)」開催！

2月22日(水)第4回「学校運営協議会(以下CS)」が開催され、8名のCS委員と3校の関係教職員等が山潟中学校に集いました。今回のCS会議の主な内容は、以下の三つです。

- (1) 後期学校評価について
- (2) 来年度の学校運営の基本方針(案)について
- (3) 地域と学校パートナーシップ事業について

初めに、各学校から「後期の評価」に関する報告があり、その後、「来年度の学校運営の基本方針(案)」 「地域と学校パートナーシップ事業」について意見交換などが行われました。協議会も今回で4回目、熱気に満ち溢れたディスカッションが交わされ、今後も地域と学校、保護者が共同歩調で取り組んでいくことを確認しました。

(1)～(3)それぞれの概要について、ご紹介します。

(1) 後期学校評価について

各小・中学校では、年度初めに定めた教育の重点目標などの達成を目指し、活動を進めてきました。後期の教育課程を振り返り、児童・生徒、保護者、教職員に対して行ったアンケートの結果、及び、今後の課題について、各校長から説明がありました。

【 山潟中学校 】

学 力 の 向 上 教育活動の様々な取組や指導場面でタブレットを活用することが多くなっている。今年度は、生徒総会議案書審議、生徒総会、生徒会選挙の演説会等、体育祭の応援練習や合唱練習、全校朝会・生徒朝会のオンライン放送などでも活用した。一方、タブレット導入以降、授業でも活用頻度や時間は確実に増えているが、まだまだ効果的な活用が十分でない面も見られる。タブレットの活用方法次第で、マイナス効果になる場合もある。来年度は、量より質を重視し、デジタルとアナログ、各種メディア等を、状況によって適切に選択した、効果的なICT活用をめざす。

心 の 育 成 「学校が楽しい」と感じ、校内・学級での人間関係が良好であるとの肯定的な評価が高い。しかし、日常の心無い言動やいじめ等の言動が全くないわけではない。全職員による見取り、日常会話、生活ノートや各アンケート等による生徒理解や情報共有をこれまで以上に丁寧に行うことで、一人一人や集団の実態や状況を多面的に理解し、生徒間及び生徒と教職員の信頼関係をさらに深めていく。

健康増進・体力向上 生徒の2時間以上デジタル機器を使用する割合、前期は、平日 32.5%・休日 62.9%、後期は、平日は、41.1%・休日は、53.5%と依然高い傾向にある。実態として、学習面より、ゲームやスマホ等の利用時間が多く占めており、結果的に就寝時間、睡眠時間が不適切な看過できない状況。来年度も、PTA、学校運営委員会や外部機関等との連携を強化し、情報モラル教育に積極的に取り組んでいく。

【 山潟小学校 】

学 習 iPad の活用に関する校内研修を行い、授業で活用することで、児童はその操作や意見交流の仕方に慣れることができた。家庭学習についても、家庭学習強調週間の継続した取組により、90%以上の保護者が肯定的評価をするなど、復習・予習の定着が見られる。昨年度培った ICT のリテラシーを基軸に、更なる深い学びを目指し iPad 等を用いたアウトプットをより主体的・対話的に行えるよう授業改善に努める。教育活動の様々な取組や指導場面でタブレットを活用することが多くなっている。

生徒指導 素直な児童が多く、集団活動は円滑に進めることができる。しかし、自分の行動に精一杯で相手への意識が希薄な児童も見られる。相手の立場を思いやることができる児童を増やす必要がある。学級や学年内の交流活動を中心としつつ、縦割り班を活用して異学年の児童同士がかかわり合う場を多く設定し、自他ともに認め合う教育活動を進めたい。

特別支援教育 どの学級でも黒板周りをすっきりさせており、落ち着いて学習に取り組める教室環境が整備されている。「みんなが分かる授業」を目指し、十分な活動時間の確保や考えを可視化した上での交流等の工夫が求められる。多様な学びを保障する授業についての校内研修を行っていく。

【 桜が丘小学校 】

学 習 児童の「家庭学習をしている」の肯定的評価は、ほぼ前期と同じだったが「あてはまる」と答えた児童の割合が増えてきている。継続して取り組むことで「習慣化」できた。iPad の活用など様々なスタイルの学習を取り入れ、ご家庭での丸付けやコメントなどをいただき、次の学年へ向けて時間的、内容的なステップアップを図っていく。

生徒指導 保護者からも「あったか言葉」や「あったか態度」を使うようにとの働きかけが分かる。子ども達も意識を継続し、自分の言葉や態度に生かしている。あいさつの大切さも、保護者からの声掛けや学校の取組の成果がある。コロナ禍でなかなか以前のようにあいさつができない場面も見られ、目を合わせてあいさつをしたり、地域のボランティアの方にも現状を伝えたりするなど、今後も粘り強く、ご家庭と学校で協力し取り組んでいく。

生活指導 家庭で粘り強く「寝る時刻」について声をかけてもらっている。「学習」「生活」「体調」に睡眠が深くかかわっているからである。しかし、実際は寝る時刻を守れていない子が増えている。さらに改善を進めていく。

（2）来年度の学校運営の基本方針(案)について

各学校長より来年度の学校運営基本方針(案)についての概要説明がありました。

学校運営協議会の主な役割のひとつに「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する」とあります。来年度の CS 会議において、あらためて「学校運営の基本方針(案)」をご提示いただき、委員のみなさんに協議していただきます。

新潟市の中学生の休日の部活動が変わります！

スポーツ庁・文化庁令和4年12月27日報道発表より

【スポーツ庁・文化庁】

◇今年度、運動部活動、文化部活動の地域移行に関する検討会議において議論を行い、提言をまとめました。➡

【新潟市方針】

◇令和8年4月からの休日の部活動の地域移行完全実施を見越し、これまで教員が指導に当たってきた休日の部活動に代わる「新潟市の中学生のための地域活動・文化活動」の準備を段階的に進めていきます。

【山潟中学校の今後の運動活動・文化活動(案)】

【山潟プラン】

◇休日及び平日 16:45 以降の部活動は「学校クラブ」とし、学校管理下外の活動とする。

◇教職員は指導に従事しない。(ただし、教職員本人の意志により指導を希望することは妨げない。)

◇学校管理下外で活動するにあたっては、活動時間での見回り・監督・付き添い等の成人である関係者(保護者・活動母体からの承認された指導者・指導を希望する教職員等)の関与を必要とする。

◇令和5~7年度中に、各競技単位で、部活動の地域移行の趣旨に則した体制づくりを進める場合には、その内容を吟味し妥当であればこれを認める。

【総論】

- ◆地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備に関すること
- ◆部活動の在り方に関すること
- ◆部活動の教育的意義・生徒の自主性に関すること
- ◆教師の働き方に関すること

【各論】

- ◆運営団体・実施主体の整備に関すること
- ◆指導者に関すること
- ◆部活動指導に係る報酬に関すること(兼職兼業含む)
- ◆適切な休養日等の設定に関すること
- ◆会費の適切な設定と保護者等の負担軽減に関すること
- ◆大会等の在り方に関すること
- ◆学習指導要領に関すること
- ◆行政における責任に関すること
- ◆その他

(3) 地域と学校パートナーシップ事業について

各地域教育コーディネーターから今年度の成果と課題の報告がありました。

【山潟中学校】

成果としては、コロナ禍ではあったが、職場体験学習で受け入れてくださる企業があり感謝したい。また、後日お礼に出向いた際、地域の事業所の方々が教育活動に貢献できたという実感をもって話をしてくださった。講師等をお願いする際の謝礼等用意が難しい中、中央区の特色ある区づくり事業「とやの物語出前講座」で支援をいただいた。

課題としては、以前とは違い、人との関わり方を配慮した中での活動のため、難しい面が増えた。コロナ禍で地域人材の活躍の場が減ったことにより、ネットワークを途絶えさせないように努めることが必要。

【山潟小学校】

成果として、昨年度に引き続き、制限された中ではあったが、地域の企業の方を招く、福祉施設を訪れるなど、コロナ前に近い程度に活動ができた。また、授業のサポートに入っていたり、昨年はないクラブ活動に関わっていたり、児童の実態に沿って活動を計画、実施することができた。

課題としては、年間を通し、どの単元でどの人材が活用できるか共通理解しておき、見通しをもった計画を立て、教職員と地域教育コーディネーターの共通理解を図ることが必要。

【桜が丘小学校】

成果としては、コロナ禍の感染状況を鑑みながら、活動の幅を広げたり、活動の持ち方を工夫したりして進めてきた。今年度は延べ 1742 人を超えるボランティアの方々の支援を受けることができた。地域教育コーディネーターと各学年担当者との連携を密にし、ボランティアを上手に進めることができた。

課題としては、コロナ禍で感染状況は刻々と変化した。その都度状況を見極めながら必要な対策を講じてきた。だが、見通しが立てにくい分、計画的な実践の積み上げが難しかった。

学校運営協議会初年度を無事に終えることができました。
保護者・地域・学校のそれぞれの立場の委員からのコメントを紹介します。

～令和4年度 第4回学校運営協議会について～

山潟小学校令和3年度 PTA 代表 廣田 幸貴

今年度最後の学校運営協議会では、各小・中学校より後期学校評価、来年度の学校運営の基本方針(案)についてご報告がありました。各小・中学校の令和4年度の後期学校評価は、前期よりもアップしている印象を受けました。しかし、効果的な ICT 活用が十分ではない面も見られたと報告もあり、来年度は状況によって適切に選択した効果的な ICT 活用を、各小・中学校と一緒に目指していけたらと思います。また、会議の中で、児童・生徒の心温まるお話も聞け、充実した会議となりました。来年度も、委員としてこの地域の児童・生徒の健やかな成長のお手伝いをさせていただきます。何卒よろしく願いいたします。

保護者

地域

～未来の担い手の成果を願って～

元小学校長 阿部 信也

学校は様々な教育課題が山積みし続けます。その解決に向けて、地域と共にある学校づくりは重要で、初めての学校運営協議会委員として、役割と責任を痛感しています。

各校の学校運営や教育ビジョンを伺い、授業参観での児童生徒の姿や先生方からの成果や評価等を見聞きし、活力と情熱ある学校づくりが推進されていると感じています。

未来を託せる子どもを育てるために、地域も学校を支え、よりよきパートナーとしての関係づくりを支援していきたいと思えます。

学校

～コミュニティ・スクールこの一年～

山潟中学校 貝塚 敦 校長

学校運営協議会初年度でしたが、山潟地区の子どもたちや地域のことを、こよなく愛し、心から大事に思っていたい委員の皆さんのおかげで、全4回の合同会議もたいへん充実したものとなりました。特に、委員の皆さんにも、実際に中学生と一緒に参加していただいた情報モラル授業は、これこそが「熟議」の原点たる取組であると、各方面から高い評価をいただきました。山潟地区の地域の力をあらためて実感する一年でした。

「CS 通信」「地域と学校パートナーシップ事業」についての問合せ先

- * 山潟中学校 TEL 286-5369 (後藤 素子 地域教育コーディネーター)
- * 山潟小学校 TEL 286-6796 (山田 真紀 //)
- * 桜が丘小学校 TEL 286-2955 (中村 知子 //)

